

「附属幼稚園を残して」「一方的に押しつけないで」

廃園方針はもう撤回を

日本共産党



6月26日、田中弘美教育長に要請する日本共産党市議団。2度目となる議会での陳情採択を重く受け止め、附属幼稚園廃園方針の撤回と、少なくとも事務作業を凍結し、保護者等との話し合いを最優先するよう提起しました。

保護者や地域住民が提出した「公立幼児教育施設の存続を求める陳情書」は、18対9で採択されました。廃園を迫る市長に対し、市民と議会が再びストップをかけた形です。採決結果を見届けた市長は「重く受け止め、熟慮を重ねる」と発言。強引な廃園を迫る事務は凍結し、方針の見直し・再考が求められます。日本共産党市議団は、「全的に障害のある子もない子も一緒に教育を受ける教育環境の充実は大いに賛同するものの、その引き換えに附属幼稚園を廃園にする理由はなく、道理もない」とキッパリ指摘。また、第1回定例会での陳情



採択を「重く受け止める」と言いながら期限を切った廃園を一方的に進める市長の姿勢を強く批判しました。廃園に固執する市長の姿勢は完全に民意無視であり、自治基本条例までも否定する行為です。子どもや保護者、卒園生、地域住民の理解を得られない廃園方針は撤回、もしくは少なくともいったん凍結するべきです。

熱中症対策

危機感持ち、対策強化を

殺人的な暑さを繰り返す夏。日本共産党市議団は、毎年、熱中症対策の強化を議会内外で提案しています。

市当局は、クーリングシエルトーとなる公共施設等の拡大を約束。また「熱中症警戒の広報、

「夏季加算」創設を求める意見書可決

日本共産党市議団と流政会が提案した「生活保護の夏季加算創設を求める意見書」は21対6で可決されました。

熱中症指数計の活用、低所得者へのエアコン設置補助を行う」と約束しました。

大きな一歩 補聴器購入助成

実現に共同広げる 党市議団

市民団体が提出した「高齢者の補聴器購入助成を求める請願書」は全会一致で採択され、願い実現に向けた大きな一歩です。

市内では、要介護認定を受けた高齢者の2人に1人が認知症を発症しており、対策が急務です。「難聴は認知症の危険因子」との厚生労働省の指摘を活かし、補聴器の積極的活用がカギです。「高額でなかなか買えない」という声に応える政治の出番です。

日本共産党市議団は、市に対して市民の要望を繰り返し届け、2度にわたり国等への意見書案を市議会に提出。昨年第1回定例会では

全会一致で可決され、共同の輪を広げてきました。

2024年第2回定例会 星取表

会派	日本共産党				流政会					自民党		公明党		流山みらい															
議員名 ○賛成 ×反対 -棄権 ※議長は表決に参加しない。	乾 乾	高橋 光	植田 和子	小田桐 仙	小沢えみり	川本 大岳	渡辺 仁二	近藤 美保	石原 修治	坂巻 儀一	笠原 久恵	青野 直	中川 弘	海老原 功一	桑畑 伴子	岡 明彦	戸辺 滋	野村 誠	宇田 桜子	清水 大	西尾 段	楠山 栄子	中村 彰男	藤井 俊行	鈴木ゆうすけ	矢口 輝美	森田 洋一	阿部 治正	
補聴器購入費助成を求める請願 (採択)	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
公立幼児教育施設の存続を求める陳情 (採択)	○	○	○	○	×	×	×	×	×	議	議	議	議	議	議	議	議	議	議	議	議	議	議	議	議	議	議	議	
南流山駅周辺地区まちなみづくり促進条例 (可決)	×	×	×	×	○	○	○	○	○	議	議	議	議	議	議	議	議	議	議	議	議	議	議	議	議	議	議	議	
生活保護制度の夏季加算創設を求める意見書(可決)	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○